

# 大豆管理情報 (第3号)

令和6年8月1日  
農業技術課 広域普及指導センター

## 1 気象経過 (図1)

### (1) 気温

5月下旬の平均気温は、18.4℃ (対平年差-0.6℃) と平年に比べ低かった。  
6月の平均気温は、23.2℃ (同+1.8℃) と平年に比べかなり高かった。  
7月の平均気温は、27.8℃ (同+2.3℃) と平年に比べかなり高かった。

### (2) 降水量

5月下旬の降水量は、5月28日の大雨の影響もあり、133.0mm (対平年比 368%) と平年に比べかなり多かった。  
6月の降水量は、150.0mm (同87%) と平年並であった。  
7月の降水量は、265.0mm (同108%) と平年並であった。  
梅雨明けは8月1日で (前年7月21日、平年7月23日) と平年に比べ9日遅かった。

### (3) 全天日射量

5月下旬の平均全天日射量は、16.6MJ/m<sup>2</sup>/日 (対平年比 86%) と平年に比べ少なかった。  
6月の平均全天日射量は、20.3MJ/m<sup>2</sup>/日 (同 117%) と平年に比べかなり多かった。  
7月の平均全天日射量は、17.3MJ/m<sup>2</sup>/日 (同 104%) と平年並であった。

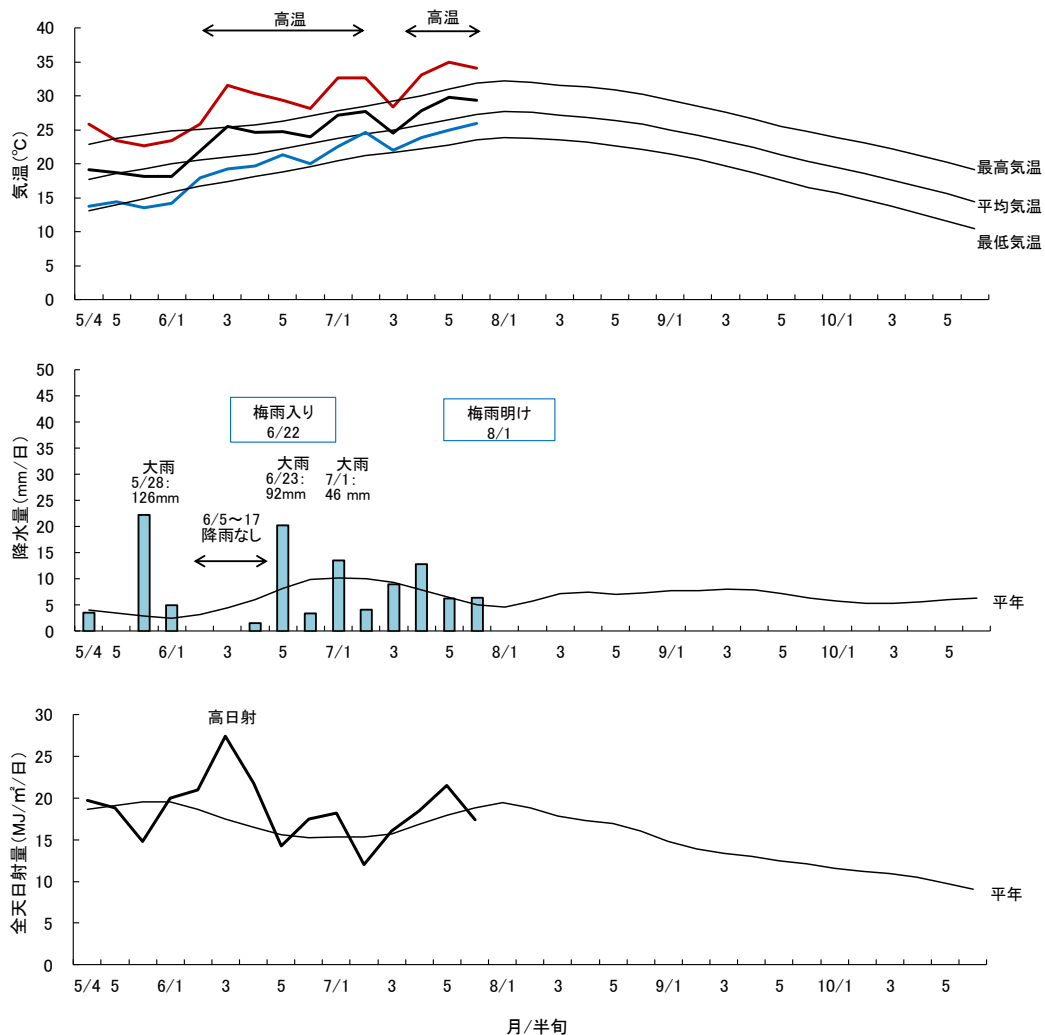


図1 令和6年の気象経過 (富山地方気象台)

## 2 生育経過（生育観測ほデータ）

### (1) エンレイ（単作）

- ・ 平年に比べ、主茎長はやや短く、本葉葉数は0.2葉少なく、一次分枝数は0.1本少なくなっている。
- ・ 開花期は、平年並の7月18日となった。

### (2) エンレイ（麦あと）

- ・ 平年に比べ、主茎長はやや短く、本葉葉数は0.2葉多く、一次分枝数は0.5本多くなっている。
- ・ 開花期は、平年より3日早い7月19日となった。

### (3) シュウレイ

- ・ 平年に比べ、主茎長は並、本葉葉数は0.3葉多く、一次分枝数は0.3本多くなっている。
- ・ 開花期は、平年より4日早い7月19日となった。

表1 大豆生育観測ほ調査結果（8月1日調査）

品種	年次	播種日 (月日)	栽植本数 (本/㎡)	主茎長 (cm)	本葉葉数 (葉)	一次分枝数 (本)	開花期 (月日)
エンレイ	単作	R6	17.7	68.3	12.4	1.8	7月18日
		R5	17.4	71.1	12.3	1.4	7月22日
		平年	16.5	73.8	12.6	1.9	7月18日
	平年比・差	5	107	93	-0.2	-0.1	0
エンレイ	麦あと	R6	16.4	63.2	12.0	2.5	7月19日
		R5	16.5	65.0	12.2	1.9	7月19日
		平年	16.8	67.6	11.8	2.0	7月22日
	平年比・差	1	97	93	0.2	0.5	-3
シュウレイ	シュウレイ	R6	12.4	61.1	11.8	3.0	7月19日
		R5	13.0	54.6	11.3	3.1	7月24日
		平年	15.2	62.7	11.5	2.7	7月23日
	平年比・差	1	81	97	0.3	0.4	-4

注1) 調査ほ場数: エンレイ(単作5、麦あと3)、シュウレイ(単作3)

注2) 平年値はH26~R5

注3) 平年比(差): 栽植本数、主茎長は平年比、播種日、本葉葉数、一次分枝数、開花期は平年差

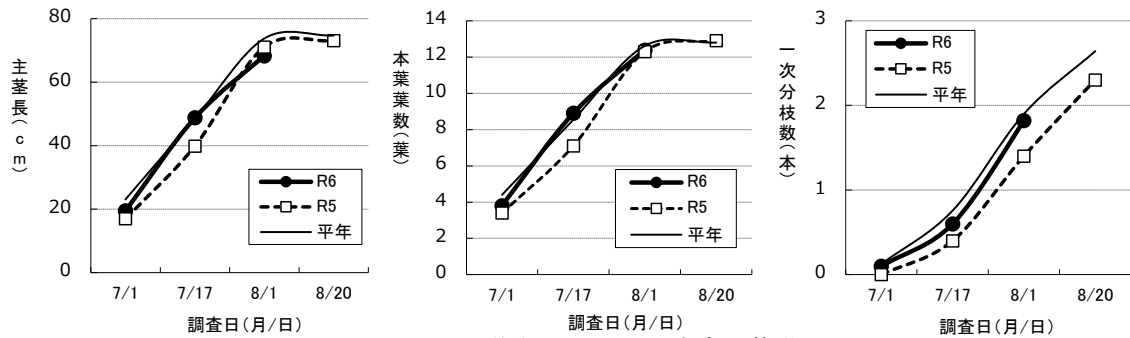


図2 単作エンレイの生育の推移

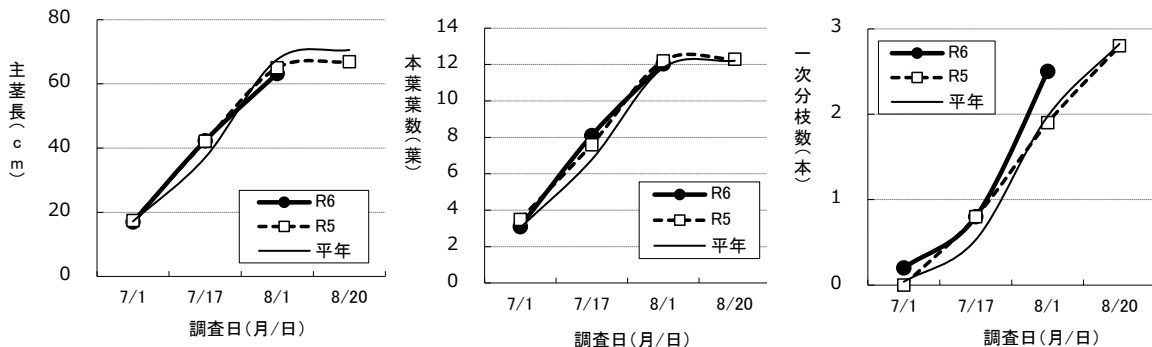


図3 麦あとエンレイの生育の推移

### 3 当面の技術対策

- ・畦間かん水の入排水や降雨後の排水を速やかに行うため、溝の手直しや連結、排水溝の掘下げを確実に実施する。
- ・今後、気温が高いと予報されていることから、晴天が3日以上続くと見込まれる場合は、降雨に頼らず積極的に畦間かん水を実施する。
- ・吸実性カメムシ類が多発していることから、2回の基本防除(紫斑病及びカメムシ類)を徹底する。(病虫害発生予察注意報第4号：7月30日発表)

#### (1) 排水対策

畦間かん水の入排水や降雨後の排水を速やかに行うため、溝の手直しや連結、排水口の掘下げを確実に実施する。

#### (2) 畦間かん水

- ・9月上旬まで晴天が3日以上続くと見込まれる場合は、降雨に頼らず積極的に畦間かん水を行い、落花・落莢の防止による莢数の確保と青立ちの防止を図る。
- ・かん水は短時間で実施し、ほ場全体に水が行き渡ったら、水口をしっかりと止め速やかに排水する。
- ・畦間かん水を行う際は、下流域まで十分に水が行き渡るよう地域内で調整し、効率的かつ計画的な用水の利用が行われるよう配慮する。

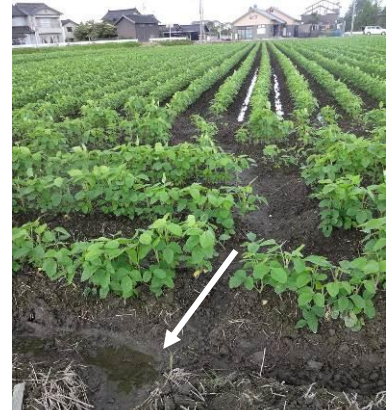


写真1 入排水を速やかに行うため溝を確実に連結

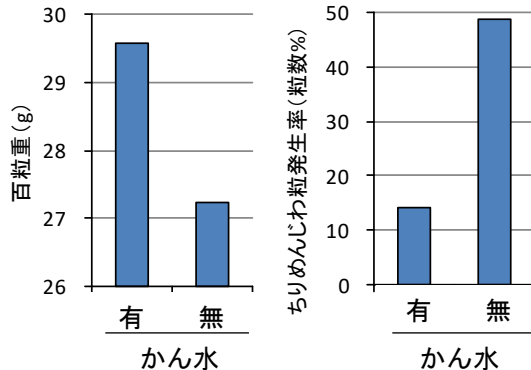


図4 かん水の有無が百粒重やしわ粒の発生に及ぼす影響 (H24 富山農振セ)  
注) かん水有区：かん水2回実施



写真2 子実肥大期の水不足や高温で発生しやすい被害粒

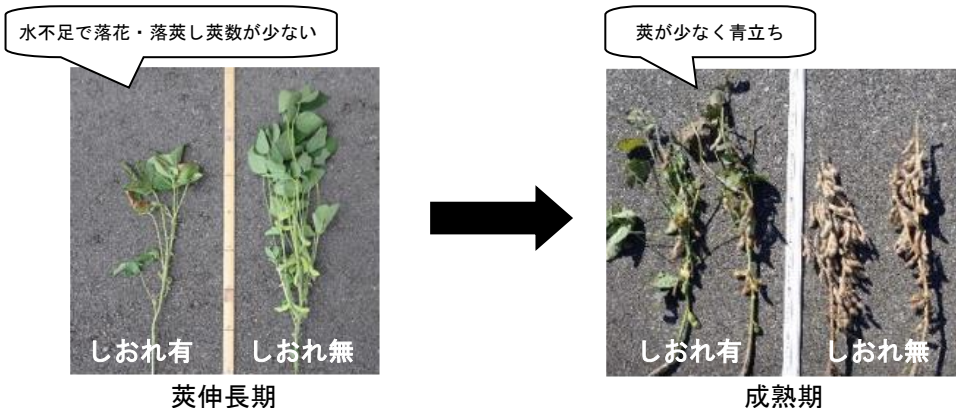


写真3 開花期以降の水不足により落花・落莢した大豆 (R5 現地ほ場)

(3) 病虫害防除 (図5) 吸実性カメムシ類：7月30日注意報発表

【基本防除】

- ・吸実性カメムシ類の発生状況は、7月25日現在で0.50頭と平年(0.05頭)より多くなっている(農研定点調査)。莢伸長期の加害は落莢や子実肥大停止により青立ち株の発生につながるため、紫斑病とカメムシ類に対して、2回の基本防除(8月2～3半旬頃と4～5半旬頃)を徹底する。
- ・薬剤は、同一系統の薬剤の連用は避け、莢や茎葉に薬剤が十分付着するよう散布する。

【随時防除】

ア 吸実性カメムシ類

- ・カメムシ類は子実を吸汁するため、被害粒の増加と青立ちの発生要因になる。
- ・山際等の常発地域や2回の基本防除後に発生が多くみられる場合は、9月上旬に追加防除を実施する。

イ ウコンノメイガ

- ・生育の旺盛なほ場や葉色が濃いほ場で多発する傾向がある。
- ・幼虫による葉巻の発生量を確認し、1株当たり平均6個以上の葉巻があれば、速やかに「ダントツH粉剤DL」や「プレバソソフロアブル5」等で防除する。

ウ ハダニ類

- ・夏季の高温・乾燥で多発する傾向がある。
- ・8月上～中旬にハダニによる葉の黄化がほ場の1割程度みられたら、葉の裏に薬剤が十分かかるよう「ニッソラン水和剤」等で速やかに防除を行う。

エ ハスモンヨトウ

- ・若齢幼虫による白変葉が見え始めたら、被害葉を速やかに取り除き、ほ場外で処分するとともに、発生状況に応じて薬剤を散布する。

オ 葉焼病

- ・強風雨で蔓延し、多発すると収量、品質が低下する。
- ・発生初期に「Zボルドー」等で防除する。

	7月	8月		9月
	下旬	上旬	中旬	下旬
生育ステージ	開花期	莢伸長期		子実肥大期
基本防除		【1回目】 紫斑病 カメムシ類	【2回目】 紫斑病 カメムシ類	
随時防除	葉焼病	ウコンノメイガ	ハダニ類	ハスモンヨトウ
				カメムシ類



図5 大豆の病虫害防除時期 (例：6月上旬播種)

(4) 雑草対策

- ・ほ場内の大型雑草や難防除雑草は、雑草が結実する前に防除(手取り、除草剤塗布、地際からの刈取り等)を徹底する。特に、帰化アサガオ類やイヌホオズキ類の難防除雑草は水田周辺等も含め防除するとともに、防除後も再度発生することがあるので、継続的に防除する。